

## 刊行にあたって

1990年代後半、日本の歯科界ではおもに歯内療法の領域で歯科用マイクロスコープが導入され始めました。当時は「海のものとも山のものとも、わからないマイクロスコープ」の書籍やセミナーなどまったくなく、自ら海外に足を運んで勉強するという時代でした。そのようなマイクロスコープ黎明期に活躍された先生方のご尽力により、2004年に日本顕微鏡歯科学会（JAMD）は設立されました。筆者は2007年の第3回学術大会から参加し、それ以来、毎年の学術大会で多くの先生方と出会い、共感し、学んで参りました。

時は流れ、2018年に日本顕微鏡歯科学会は一般社団法人となり、2021年4月現在、日本顕微鏡歯科学会の会員数は1,900名を超え、指導医35名、認定医130名、また、2013年に始まった認定歯科衛生士は81名となり、マイクロスコープのユーザーは年々、増えていることを実感しています。

また、一般にもマイクロスコープの認知度は上がり、「これからの歯科治療を変える三種の神器」として、CAD/CAM、CBCTと並んでマイクロスコープは評価されるようになりました。世界的にみても日本はマイクロスコープの普及が急速で、実際の臨床において、歯内療法のみならず、修復治療、歯周治療、補綴治療、口腔外科、インプラント治療、そして歯科衛生士によるメンテナンスに至るまで、幅広く使用されております。とくに歯科衛生士による「マイクロメンテナンス」を行っている国はほとんどなく、いまや日本は「マイクロスコープ先進国」といっても過言ではないでしょう。

本書は、「マイクロスコープの導入を検討しているが、なかなか購入に踏み切れない」、「マイクロスコープを導入したが、あまり臨床で活用できていない」といった悩みをもつ「マイクロスコープ初心者」を対象として企画されました。これまでも、マイクロスコープ黎明期の先生方によって、マイクロスコープ関連の書籍が多く発刊されてきましたが、「まったく新しいマイクロスコープの入門書」にすべく、日本顕微鏡歯科学会認定指導医であり、代議員でもある高田光彦先生、辻本真規先生に編集委員としてご協力いただき、各分野において執筆やセミナーなどで、現在活躍されている若手～中堅の先生方を選出しました。

ご執筆いただいた先生方からは、「もっと書きたいことがいっぱいある」「伝えきれなかったかも？」などのご意見をいただきました。本書をお読みにになり、興味をもたれた先生におきましては、ぜひ日本顕微鏡歯科学会に参加し、さらに意見交換されることをお勧めいたします。



本書を通じて、マイクロスコープの導入からその有用性について理解を深めていただき、日々の臨床に役立てていただければ幸いです。

最後にこの場をお借りして、お忙しいなかご執筆いただいた諸先生方に、心より御礼申し上げます。

2021年9月  
櫻井善明